

企画展

飯沼廻りの 天神信仰

令和2年

2 / 22 土 ~ 5 / 17 日

【開館時間】平日 午前10時〜午後6時30分 土・日・祝 午前10時〜午後5時
【休館日】月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日 【入場料】無料



画像【上】「北野天神縁起絵巻」より 清涼殿落雷(部分) (常総市 馬場天満神社 所蔵)
【下】「御神酒天神画像」(常総市 大生郷天満宮 所蔵) ※複製展示

飯沼廻りの天神信仰

菅原道真(845-903)は平安時代中期に学者、政治家として活躍するも、政敵の讒言により九州の大宰府に左遷され現地で没しました。その死後に発生した天変地異は道真の怨霊による祟りと信じられ、人々は道真を天神と崇敬し信仰するようになりました。その後、北野天満宮や太宰府天満宮などが創建され、道真公を祭神とする天満宮・天神社は全国に広がっています。当地方でも、常総市の大生郷天満宮のほか、村や地域の鎮守として祀られている天神社や、旧家の屋敷内などに小さな祠を見ることができます。

その昔、坂東市、常総市、古河市、八千代町の市境には満面の水を湛えた飯沼という広大な沼地がありました。江戸時代の干拓によって水田耕地となりましたが、新田開発が完成すると大生郷天満宮には水田が寄進されるとともに、新たに成立した新田村には天神社が勧請され、地域紐帯の社として信仰されてきました。飯沼周辺に散在する天神社では現在でも例祭が行なわれ、奉納相撲などの伝統行事を行っている所もあり、天神信仰は地域の歴史や暮らしと深い関係をもっているのです。

今展覧会では、飯沼耕地の周囲に分布する天満宮・天神社の歴史や伝承、伝統行事等を紹介し、坂東市周辺地域の天神信仰を考察しています。本展を通じて、私たちが菅原道真公に「学問の神」としてのイメージだけではなく、郷土に残る「地域の天神信仰」を知っていただければ幸いに存じます。



大生郷天満宮(常総市)
菅原道真公の遺骨を御神体とし、道真の遺族が創建したという伝承をもち、関東以北では最古の天満宮といわれる



松崎天神社(坂東市)で現在もおこなわれている奉納相撲
(写真提供：坂東市立内野山小学校 撮影：張替義弘氏)



「北野天神縁起絵巻」より紅梅殿落離(左)、清涼殿落雷(右) (常総市 馬場天満神社 所蔵)



菅原道真公を祀る坂東市の神社。御幸神社(左)、生子新田天満社(右)

